

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	柳井		
科目名	美容理論（接客心理）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	接客するために必要な「商品・サービスの商品属性研究」「ニーズの創造」 スムーズな接客ができるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	接客心理検定とは 第3章接客コミュニケーションテクニック ・ポジティブハロー　・初頭効果　・単純接触の原理　・親近効果 〈ワーク〉自己紹介			P52～P58	
2	第3章接客コミュニケーションテクニック ・i一面提示・両面提示　・OATH理論　・マズロー欲求段階説 〈ワーク〉欲求のワーク			P59～P68	
3	第3章接客コミュニケーションテクニック ・コントラスト　・アンカリング　・コミットメント 〈ワーク〉コミットメント)			P69～P78	
4	第3章接客コミュニケーションテクニック ・接客距離・笑顔の硬化　・返報性・時間の共感・記憶 ・カクテルパーティ効果 〈ワーク〉パーソナルスペース・聴く技術（態度、繰り返し、促し）			P79～P87	
5	第3章接客コミュニケーションテクニック ・カタルシス・フットインザドア　・ドainザフェイス ・親和性を高める 〈ワーク〉恋愛のメカニズム感情のメカニズム・セルフイメージミッションビ ジョン			P88～P93	
6	第3章接客コミュニケーションテクニック ・アップセル・ダウンセル・クロスセル　・希少性の原理　・空間心理　・色 彩心理 〈ワーク〉質問する技術・聴く技術（要約）			P94～P106	
7	第3章接客コミュニケーションテクニック ・自己成熟・認知的不調和　・ボディランゲージ 〈ワーク〉良い接客・悪い接客・聴く技術（共感）スキーマボードの作成			P107～P119	
8	第一章商品属性の研究 ・属性名と属性値　・属性値の決定　・トレンド便乗の方法 〈ワーク〉商品の属性値を考える・聴く技術（共感）スキーマボードの作成			P2～P16	

授業回	学習内容	備 考
9	第一章商品属性の研究 ・属性値を購買プロセスに組み込む ・認知スキーマー(スキーマボード) ・記憶 〈ワーク〉スキーマボードの作成・聴く技術（承認）	P17～P26
10	第一章商品属性の研究 AIDMA法則・認知スキーマー・バーナムフォアラー効果 〈ワーク〉スキーマボード作成	P27～P33
11	第2章 情報とコミュニケーション ・正しい言葉遣い ・情報とコミュニケーション ・談話能力 ・練習問題（過去問題）、解説 〈ワーク〉スキーマボード作成・ページング	P36～P43
12	第2章 情報とコミュニケーション ・社会言語能力 ・方略的言語能力 ・練習問題（過去問題）、解説 〈ワーク〉スキーマボード作成/商品プレゼンテーション	P44～P50
13	試験対策① 筆記練習問題（過去問題①）、解説 ・実技試験対策①	—
14	試験対策② 筆記練習問題（過去問題②）、解説 ・実技試験対策②	—
15	接客心理検定 準2級試験日	—
到達目標	顧客の心理を理解し、接客時のコミュニケーションの基本を身につける。	
評価方法	授業態度、出席状況、ノート提出、過去問題80点以上を合格とする	
テキスト	接客心理検定 3級テキスト	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	池田		
科目名	美容美術（造形学）	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間(単位)	30
教育目標・ねらい	1,2年次のデッサン、デザインの創造活動を活かし、実践的なマイクワークも行うなかで、卒業後のキャリアプランを描くことができる。テーマに挑戦するといった経験が卒業後、各職場で即戦力となる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアーデッサンⅠ-資料の拡大、模写の方法 [到達目標]①模写する人物の画像をA3に拡大コピーして持参する。顔に明暗があり立体感のある毛髪の流れや顔の表情など魅力を感じる描きやすい資料がよい。②資料の模写の準備、マス割ができる。③線の凹凸、ガイドの線を通る位置、線の濃淡など、1マス1マス確認しながら顔などの輪郭線の模写を進める。全体の2割以上描き進める。			A3ケント紙、模写する人物写真「探し」の人物でも良い、定規、鉛筆、練りゴム	
2	1.ヘアーデッサンⅡ [到達目標]①凹凸に気をつけて輪郭を全体的に描く。②一番暗い部分の形を塗る。③顔を中心に毛髪や目、唇等を明暗に気を配り濃淡をつけ描く④ガイド線を消してから陰影をつけ、立体感を出す。全体の4割まで進める。			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム	
3	1.ヘアーデッサンⅢ [到達目標]①毛髪の輪郭、暗部が描けたらガイド線を消し、鉛筆で濃淡をつけてゆく。ねりゴムで明部を描く。②顔の前面と側面、稜線などを意識することが重要で、顔や頭部など、面の向きや動きによって、明暗が変化していることを理解する。明暗の描写で顔や毛髪の立体表現ができる。6.7割まで進める。③別課題「人物デッサンⅣ」-昨年度未完であった早描きの人物画1人を素早く仕上げる。全体を見渡す復習になる。			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム、色鉛筆	
4	ヘアーデッサンⅣ [到達目標]①ぼやけている箇所は指でぼかしたり、はっきりしている箇所は細部を詳細にさらに描き深める。②背景は特に描きたいものは描き、人物を際立たせるよう人物の輪郭処理に注意する。8.9割まで進める。③全体のバランスに配慮し、濃淡をより洗練させ作品を仕上げる。④長時間デッサンに向き合い、描写と表現行為の中で人間にに対する美の感情を深める。2.次課題、円の配置、色彩効果の解説			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム	

授業回	学習内容	備 考
5	円の配置、色彩効果Ⅰ [到達目標]規定の円を用い各自でテーマを決め作品を作る。円の配置によって動きを、色彩効果によって感情や情景を自由に表現する。配色カードで使う色を計画する。1年次の色彩の基礎を応用し、目的に合わせ色使いをより洗練させる。人物や文字風景など円以外の任意のモチーフを描いても良い。4,5割着色を進める。	A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
6	円の配置、色彩効果Ⅱ [到達目標]着色を進める中で、色の変化が適切か、退屈な部分にはワンポイントを足すなど完成に向け工夫をし丁寧に <u>仕上げる</u> 。作品を見る相手にそれが伝わっているか考え、より美しく良いデザインに改善、刷新する。	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード
7	2つのテーマのメイクデザインの考案 [到達目標]1,2年次の授業で学んだ内容を活かし、メイクデザインを考案できる。色彩配色や配置、直線曲線を選び自由にデザインする。2つは対でなくともよく、2つの差異が美しく楽しく表現できるテーマを各自で選定する。具体的モチーフを用いても幾何学的であっても良い。※この課題は8.9の一部授業時に制作しても良い。	A4ケント紙、配色カード、色鉛筆、カラーペンなど
8	老婆の模写Ⅰ ※自分の祖父母の写真を資料とすると未来の自分の老人像と繋がるのでさらに良い。 [到達目標]マス目に沿って老婆の模写をする。でっぱり凹みに注意してアウトラインを描く。老人の筋肉の衰えに伴い重力によって垂れ下がる箇所を学ぶ。顔の形の変化やシワのでき方を観察しげっくりと描くことで習得することができる。2割描き進める。	モデルとする老婆の画像をB4にコピーして持参、B4ケント紙、定規、鉛筆、練りゴム
9	老婆の模写Ⅱ [到達目標]ぼかしたり明暗を使いながら、顔のシワや皮膚のシミのリアルな描写を目指すことで、自然な線の描写を習得する。集中力を持続させ描く。進みが遅い場合は全体の把握をしながら完成に向け最短コースを意識して描く。6割まで進める。	鉛筆、練りゴム
10	老婆の模写Ⅲ [到達目標]①8.9で学んだ立体感、凹凸の出し方、筋肉に沿った線の入れ方、線のぼかしなどを使い、この後、学生が各々の顔に老婆のメイクをすることを想定し、老婆の模写を完成させる。 ○補足課題…早く終わった学生用。スクラッチやペン画など用意	持ち物：鉛筆、練りゴム

授業作品例	
到達目標	<p>色彩の理論を生かし、自らの選んだテーマに沿って作品を形づくり、発表することができる。地道な努力で粘り強く取り組み、期待するような色彩、描画を描けるようになる。模写2作品で「デッサン力」を磨き、デザイン2課題で「発想し作り上げる力」を養う。そこで学びを実際にメイクに活かすことができる。</p>
評価方法	<p>作品のデザイン性と完成度、仕上がりで各課題を採点します。ヘアーデッサン、円の配置、アイメイク、老婆の模写、老婆のメイクの課題をそれぞれ集計し、課題にかかる時間数や重要度により按分し、副課題の加点、提出遅れや居眠り、制作遅れ等の減点を行いA~Eの成績点といたします。合格点はA~Dです。全課題を提出する必要があります。</p>
テキスト	プリント

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野					
科目名	美容実習（メイク）	学 年	2	実施時期	前期			
授業形態	実習	必修・選択 の別	必須	授業時間(単位)	30			
教育目標・ねらい	要望に合わせたメイク技術と提案力を身に着け、現場や様々なシーンで対応できるようにする							
授業回	学習内容			備 考				
1	ティスト別 メイク	マットな肌づくり マット肌に合わせたメイク ※ before・afterで写真を撮り、フェイスチャートにまとめる						
2		セミマットな肌づくり セミマット肌に合わせたメイク ※ マットとセミマットの絶妙な質感の違いを理解する						
3		ツヤな肌づくり ツヤ肌に合わせたメイク ※ スキンケア、ベースの重要性を再確認						
4		グロッシーな肌づくり グロッシー肌に合わせたメイク ※ ツヤとグロッシー（みずみずしいツヤ）などの絶妙な質感の違いを理解						
5		ダークメイク 濃い暗いカラーでのメイク ※ 濃いカラーアイテムでのグラデーション、リップの強化						
6		ヌーディーメイク ヌーディーな色味を抑えたメイク ※ 色味を抑えたメイクによりアイブロー、アイラインの正確さが際立つことを確認						
7		ヌーディーメイクを要望に合わせたメイクチェック 30分 ※ 色味を抑えたメイクによりアイブロー、アイラインの正確さが際立つことを確認をチェック						
8.9		カウンセリングをし要望に合わせたメイクをする①～③ ※1 施したメイクのプレゼンテーション発表をし、プレゼンテーション力を上げる ※2 要望のイメージを詳しく深くまで掘り下げ、聞き出す力、イメージ共有の力を身につける ※3 要望、お客様の肌質、悩みなどから適したアイテムを選択し、メイクができるようにする						
10.11		前期実技試験 要望に合わせたメイク 30分						
12.13								
14.15								
到達目標	要望に合わせたメイク技術と提案力を身に着け、現場や様々なシーンで対応できるようにする							
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない							
テキスト	配布プリント							
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う							

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野					
科目名	美容実習（メイク）	学 年	2	実施時期	後期			
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30			
教育目標・ ねらい	シーンに合わせたメイクをカタチにできる技術力とプレゼン力を身に着ける							
授業回	学習内容			備 考				
1.2	ブライダル	和装メイク ※1 写真を撮りフェイスチャートにまとめる ※2 着物の写真を見て、その衣装に合うメイクをする						
3.4		洋装メイク①(花嫁) ※ドレスの写真を見て、その衣装に合うメイクをする						
5.6		洋装メイク② (お色直し)						
7	メンズメイク	メンズメイク (宝塚)						
8.9	ブライダル	洋装メイク チェック						
10.11	メイク	シーン、テーマに沿ったメイク① 卒業式袴メイク ※2年間で学んだメイクの集大成とする						
12.13		シーン、テーマに沿ったメイク②ブライダルヘアメイク ※メイクの仕上がりとその意図などをプレゼンテーションする						
14.15		《後期実技試験》課題：ブライダルメイク（お色直し） シーン、テーマに沿ったメイク 30分						
到達目標	シーンに合わせたメイクをカタチにできる技術力とプレゼン力を身に着ける							
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない							
テキスト	配布プリント							
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う							

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口				
科目名	美容実習(セット試験課題)	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60		
教育目標・ ねらい	ヘアセットを学びながら、ヘアメイクアップアーティストに必要な立ち振る舞いと共に理論と技術修得を目指す						
授業回	学習内容			備 考			
1~3	イメージ分類とイメージごとの作成技術 【到達目標】イメージ分類とイメージごとのスタイル作成が出来るようになる						
4~14	イメージごとでデザインシート作成とスタイル作成 【到達目標】テーマに対してを30分でスタイルを作れるようになる						
15・16	テーマをもとにデザインシートの作成とスタイル作成 【到達目標】イメージ理論を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる						
17・18	要望に応じたイメージをデザインに落とし込む 【到達目標】要望を読み取りデザインに落とし込むことができる						
19~29	要望に沿うデザインシート作成とスタイル作成 【到達目標】テーマに対してを30分でスタイルを作れるようになる						
30	要望をもとにデザインシートの作成とスタイル作成 【到達目標】要望を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる						
到達目標	イメージ理論を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる						
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口				
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ねらい	ヘアセットにおけるポイントごとの技術力を高め、セットスタイルにおける総合力を高め 現場での即戦力化を目指す。						
授業回	学習内容			備 考			
1～2	フロント 【到達目標】フロント作成の際、複数のイメージパターンを作成できる						
3	ストレートアイロン 【到達目標】ストレートアイロン使用の際、複数のイメージパターンを作成できる						
4～5	サイド 【到達目標】サイド作成の際、複数のイメージパターンを作成できる						
6	トップ 【到達目標】トップ作成の際、複数のイメージパターンを作成できる						
7	アンダー 【到達目標】アンダー作成の際、複数のイメージパターンを作成できる						
8	カールアイロンクリエイティブ 【到達目標】カールアイロン使用の際、クリエイティブなデザインを作成できる						
到達目標	ヘアメイク現場で必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる						
評価方法	各期実技チェック(100点満点)で評価する。なお、所定授業指數(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	ヘアセットにおけるシーンごとのヘアセット技術を高め、セットスタイルにおける高い総合力を持ち、現場での即戦力化を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	汎用性のあるウェディングヘアスタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】汎用性のあるウェディングヘアスタイルを作ることができる				
3・4	汎用性のある成人式スタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】ベーシックな成人式スタイルが作成できるようになる				
5・6	汎用性のあるパーティースタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】ベーシックなパーティースタイルが作成できるようになる				
7	汎用性のあるまとめ髪理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】ベーシックなまとめ髪スタイルが作成できるようになる				
8	総合 【到達目標】複数のイメージパターンのアップスタイルを作成できる				
到達目標	ヘアメイク現場で必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる				
評価方法	各期実技チェック(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	美容実習(セット相モデル実習)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	41
教育目標・ ねらい	ウィッグではなく人に技術を施すことで、憧れだった職業を現実的に体感し接客や技術力向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	カウンセリングシートをもとに要望を把握し、ブローセットやイメージづくりにおけるより高度な技術の提供を学ぶ (クリエイティブスタイル) 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる				
2~14	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る				
15	カウンセリングシートをもとに要望を把握し、ブローセットやイメージづくりにおけるより高度な技術の提供を学ぶ (クリエイティブスタイル) 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる				
15~26	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る				
27	カウンセリングシートをもとに要望を把握し、ブローセットやイメージづくりにおけるより高度な技術の提供を学ぶ (ブライダル・成人式等を中心とするスタイル) 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる				

授業回	学習内容	備 考
28~39	相モデル実習 【到達目標】 お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る	
40~41	相モデル実技チェック 【到達目標】 チェック試験を通してお客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る事を確認する	
到達目標	モデルの要望を引き出し、カウンセリングシートにまとめ、対象者に応えられる技術提供ができる	
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指數(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない	
テキスト	配布資料	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢				
科目名	美容実習（ネイル中級）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ ねらい	ジェル検定中級試験課題を理解し、試験で使用する道具を消毒及び衛生的に配置することができる						
授業回	学習内容			備 考			
1	ジェルイクステンションについて 【達成目標】イエローラインに合わせてフォームをカットすることができる。						
2	カラーグラデーションについて 【達成目標】爪全体の2/3程度にピンクのグラデーションを自然で美しい色の濃淡を表現することができる。						
3	フレンチカラーリングについて 【達成目標】爪先を白のカラージェルで左右対称のスマイルラインを描くことができる。						
4	ジェルオフについて 【達成目標】溶剤を使わずにジェルを削って、ナチュラルネイルをまで削らないで仕上げることができる。						
到達目標	ジェルイクステンション、カラーグラデーション、フレンチカラーリング、ジェルオフの手順、仕上がりを理解し、規定通りに仕上げることができる、						
評価方法	各期試験、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	JNAジェルネイルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境				
科目名	美容実習（ネイル中級）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	・ジェルスカルプチュア説明、練習 【到達目標】 ジェルネイルの特性を理解し、長さ出しができるようになる						
2	・タイムトライアル 【到達目標】 正しく道具を使用し、仕上げまで時間内に終わらせることが出来るようになる						
3	・タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】 正しく道具を使用し、仕上げまで時間内に終わらせることが出来るようになる						
4	・ネイル実技試験(中級) 【到達目標】 ジェルネイル技能検定中級内容を理解し正しい手順、技法で施術することが出来る						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定中級合格レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAジェルネイルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（マツエク）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	43
教育目標・ ねらい	まつ毛エクステンションの装着、リムービング、テーピング技術の習得 衛生管理を危惧し、安全・安心な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	まつ毛エクステンションについて 【到達目標】地まつ毛1本に人工毛を1本つける技法を理解する			3h	
2	用具について 【到達目標】備品、道具、用材、材料を理解し、それぞれの用具の使用方法、選定方、保守管理などを理解する				
3	衛生管理 【到達目標】器具類の消毒方法を学び、消毒液の作り方、消毒液の保管、消毒済器具類の保管方法、消毒容器の使用方法を理解しテーブルセッティングすることができる				
4	グルーの使用目的、種類と特徴、使用上の注意 【到達目標】特性、使用方法を理解する				
5・6	ツイザーの持ち方 【到達目標】基本的なツイサーの持ち方をマスターし、地まつ毛のかき分け、Jカールのエクステンションを装着できるようになる				
7～10	エクステンションの装着 【到達目標】まつ毛エクステンションの長さ、カール、太さを学び、Cカールのエクステンションを装着できるようになる				
11・12	テーピング、リムービング 【到達目標】施術補助テープの種類と役割を学び、用途に合わせたテープの選び方、テーピングの使用、リムーバーで丁寧に取り除くことができる				

授業回	学習内容	備 考
13~15	サロンワークでのまつ毛エクステンション 【到達目標】カウンセリングから施術、アフターカウンセリングまでの流れを理解し、サロンワークにおける注意事項を理解する	
16・17	タイムトライアル 【到達目標】実技試験の流れを理解し、道具のセッティングから時間内に終わらせる	
18・19	準備時間（10分）模擬試験（50分）講評 【到達目標】衛生的に道具が配置されているまつ毛の装着、リムービング、テーピングが規定通りにできる	
20	準備時間（10分）実技試験（50分）講評 【到達目標】衛生的に道具が配置されている安全・安心な作業をすることができる	
到達目標	基礎となるJカールの装着、リムービング、テーピングを施術することができる	
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	公益財団法人日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う 公益社団法人 日本理容美容教育センター アイラッシュエクステンションディレクター取得者が授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・小山内				
科目名	美容実習(ブライダル)	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	24		
教育目標・ねらい	ブライダル業界に必要な知識や技術を学び、ブライダル業界への関心を深める						
授業回	学習内容			備 考			
1	ブライダル検定概要 【到達目標】ブライダル業界で働くうえで必要な知識を学ぶと共に和装花嫁の髪の知識・技術を習得する						
2	マナー・接客について 【到達目標】ブライダル業界における礼儀やマナーを理解する						
3	礼装について 【到達目標】礼装の種類を理解する						
4・5	髪の装着 【到達目標】髪の装着方法を学び、装着できるようになる			※かつらのレンタルは2週間			
6～8	プライズビューティマイスター検定模擬試験						
9～11	プライズビューティマイスター検定実技試験			学内試験			
12	プライズビューティマイスター検定筆記試験						
到達目標	(1) ブライダル業界に必要な知識や技術を学び、ブライダル業界への関心を深め、卒業後 即戦力となり活躍できるようになる (2) プライズビューティマイスター検定合格						
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	プライズビューティマイスター テキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は36年以上のヘアメイク、メイクアップの施術に従事しているだけでなく、設立以来30年の歴史を有するヘアメイク事務所の主宰者である。 この莫大な蓄積をもとに、化粧品に関する基礎的地識と取り扱い上の実践的なノウハウに関する授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境				
科目名	高度実習 (ネイルコース/ネイル1級)	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	50		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1級流れ確認 <p>【到達目標】ネイリスト技能検定1級と同じスケジュールの技術工程を覚える</p>						
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクリルスカルプチュア、チップオーバーレイ練習 <p>【到達目標】技法の違う長さ出しでも統一感のあるイクステンションができる</p>						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイリング～シャイニング <p>【到達目標】ファイル、スポンジ、シャイナーを用いてイクステンションを仕上げることが出来る</p>						
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミックスメディアアート説明、練習 <p>【到達目標】立体的なアートが造形できる</p>						
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1級流れ練習 <p>【到達目標】ネイリスト技能検定1級と同じスケジュールの技術工程を行う</p>						
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムトライアル <p>【到達目標】ネイリスト技能検定1級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る</p>						
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムトライアル <p>【到達目標】ネイリスト技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る</p>						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNEC1級レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる						
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAテクニカルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境				
科目名	高度実習 (ネイルコース/ネイル上級)	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	28		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	・JNA上級内容説明、上級流れ確認 【到達目標】 ジェルネイル技能検定上級と同じスケジュールの技術工程を覚える						
2	・ジェルスカルプチュア説明、練習 【到達目標】 ジェルの特性を理解し、長さ出しができるようになる						
3	・ジェルチップオーバーレイ説明、練習 【到達目標】 ジェルの特性を理解し、長さ出しができるようになる						
4	・ジェルデザイン(フラワー、フレンチ) 説明、練習 【到達目標】 ジェルの特性を理解し各種デザインができるようになる						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定上級レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる						
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	JNAテクニカルテキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境				
科目名	高度実習 (ネイルコース/ネイルマシーン)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る						
授業回	学習内容			備 考			
1	• ネイルマシントレーニング 【到達目標】 サロンワークに必要なネイルマシーンを使用したジェルネイルオフを理解する						
2	• ネイルマシントレーニング 【到達目標】 サロンワークに必要なネイルマシーンを使用したプレバレーションを理解する						
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる サロンワークで必要とされる技術を習得する						
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	安東		
科目名	高度実習 (ヘアメイクコースメイクセラピー1級)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	36
教育目標・ ねらい	化粧心理学・メイクセラピー的心理学・カウンセリング概論を理解し、相手の心に寄り添った接客ができる。相手の具体的なオーダーに沿ったメイクを施すことができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	メイクセラピー検定1級の内容とレベル、審査基準を理解する 【到達目標】2級で学んだことを想起・復習する				
2	カウンセリング対策(傾聴スキルを学ぶ) 【到達目標】カウンセリングに必要なスキルを理解する				
3	メイク実習(1級例題①) 【到達目標】オーダーに沿ったメイクができる				
4	カウンセリング対策(ロープレ実習①受容・ペーシング・) 【到達目標】カウンセリングに必要なスキルを習得する				
5	カウンセリング対策(ロープレ実習②促し・繰り返し) 【到達目標】カウンセリングに必要なスキルを習得する				
6	メイク&カウンセリング実習(1級例題②) 【到達目標】カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
7	筆記試験対策(対話分析) 【到達目標】筆記試験に出る対話分析問題が理解できる				
8	カウンセリング対策(ロープレ実習③共感・承認) 【到達目標】カウンセリングに必要なスキルを習得する				
9	筆記試験対策(論述) 【到達目標】筆記試験に出る論述問題が正しく解答できる				
10	カウンセリング対策(ロープレ実習④質問) 【到達目標】カウンセリングに必要なスキルを習得する				
11	メイク&カウンセリング実習(1級例題③) 【到達目標】カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
12	メイク&カウンセリング実習(1級例題④) 【到達目標】カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
13	実技試験総復習 【到達目標】不得手な個所を復習し合格レベルまで改善させる				

授業回	学習内容	備 考
14	筆記＆実技試験の総復習 【到達目標】合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
15	筆記＆実技試験の総復習 【到達目標】合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
16	メイクセラピー検定（筆記＆実技）	
17	メイクセラピー検定（筆記＆実技）	
18	メイクセラピー検定（筆記＆実技）	
到達目標	心理学に基づいたメイク手法を理解し、相手の要望に沿って美しく表現する技術を身につける。相手の心に寄り添う会話術（傾聴スキル）を身につける。	
評価方法	検定の過去問題を使用し、実技（メイク・マナー・カウンセリング）および筆記（対話・論述問題）が1級合格基準に達しているかを評価する。	
テキスト	メイクセラピー検定 1級・2級テキスト	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容部員の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、村田				
科目名	高度実習 (ヘアメイクコース/化粧品検定1級)	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	演習・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ねらい	美容部員として必要な手技や知識を学び企業人としての見識や教養を深める。						
授業回	学習内容			備 考			
1	化粧品の歴史と原材料：現代に至るまでの化粧品の歴史と使用されている原材料と配合成分について学ぶ。						
2	スキンケア化粧品：クレンジング・洗顔などの洗浄用化粧品、化粧水や美容液などの基礎化粧品について学ぶ。						
3	メイクアップ化粧品：ファンデーションなどのベースメイクアップと配合される紫外線対策の成分について知る。						
4	メイクアップ化粧品：アイメイクなどのポイントメイクアップ用品とボディケアについて学ぶ。						
5	毛髪の構造とヘアケア製品：毛の構造を知り、必要な洗浄剤やタイプ別の手入れなどを学ぶ。						
到達目標	化粧品検定2級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	化粧品検定2級						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野		
科目名	高度実習 (ヘアメイクコース/化粧品検定1級)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ね らい	理論に基づいた正確な化粧品の知識習得を目指し1級検定を取得する。				
授業回	学習内容				備 考
1	化粧品の歴史 化粧品原料と基礎知識 1化粧品の原料について 2スキンケア化粧品 3男性肌の特徴				
2	化粧品原料と基礎知識 4メイクアップ化粧品の基本となる原料 5UVケア 化粧品 6ベースアップ化粧品 7ポイントメイクアップ化粧品 8アイ メイクアップ化粧品 9ボディ化粧品について				
3	化粧品原料と基礎知識 10毛髪と頭皮の構造と機能 11毛髪の変化とトラブ ル 12ヘアケア化粧品について				
4	化粧品原料と基礎知識 13爪の構造と機能 14ネイル化粧品とお手入れ方法 15嗅覚のしくみと香りの種類				
5	化粧品原料と基礎知識 16口腔と歯の構造 17サプリメントの基礎知識				
6	化粧品にまつわるルール 1化粧品と医薬品医療機器等法 2化粧品・薬用化 粧品・医薬部外品の効能と効果 3化粧品の広告やPRのためのルール 4 化粧品の全成分表示 5化粧品の安全性を守るためのルール				
7	化粧品にまつわるルール 6化粧品を安全に保つために 7化粧品と肌トラブル 8化粧品の官能評価 9官能評価の実施例				
8	日本化粧品検定1級 模擬試験				
到達目標	化粧品について応用知識が理解できている				
評価方法	化粧品検定1級試験(得点率70点以上合格)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3) を下回る学生は受験することができない				
テキスト	化粧品検定1級対策テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、牧野		
科目名	高度実習 (ヘアメイクコース/ヘアメイク)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	ヘアメイク技術と撮影方法の知識・技能をより専門的に向上させる為、現在業界で活躍している講師よりディレクションを受けながら作品作りを行う				
授業回					
1	<p>要望に対しての作品イメージ方法と理論について学ぶ 【到達目標】 イメージを形にする段階でのモデル選びやデッサンによる具現化の方法と理論について理解し実践することが出来る</p>				
3・4	<p>グループにてテーマに沿った作品作り、学んだ工程を追ってプレ作成を行い、テーマを形として具現化する 【到達目標】 イメージデッサンを実際の作品に形作ることが出来る</p>				
5・6	<p>作品撮影方法を学ぶ 【到達目標】 作品撮影と構成・見せ方・お直しの方法を学び実践的な作品撮影を理解し、できるようになる</p>				
7・8	<p>作品作成と撮影を行いポートフォリオ作品を作る 【到達目標】 作品作成を1(要望・テーマ確認、デッサンが作成・作品作り・撮影)から通じて実践し作品を作れる。 *作品は評価対象とする</p>				
到達目標	作品作成にあたりテーマからの作成手順やイメージづくり、撮影に至るまで1人で考えて作成に至ることができる				
評価方法	最終授業にて作品を作る。デザイン用紙と照らし合わせ作品仕上がりチェック(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、牧野		
科目名	高度実習（ヘアメイクコース/ シャンプー・カラー・ブロー作品）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	より高度なヘアメイク現場にて必要とされる基礎テクニックを強化すると共にカラーリング知識を身につけ、カラーリングテクニックを使った作品作りができる				
授業回					
1～4	<p>シャンプー相モデル実習(バックシャンプー・すすぎ・シャンプー・ rins)実演と指導 【到達目標】 モデルのお直しに必要な短時間で行うシャンプーテクニックが実践できる</p>				
5～10	<p>ブロー相モデル実習 実演と指導 スタイリングに伴うブローテクニックを学ぶ 【到達目標】 ショートヘアのブロースタイリングが出来るようになる</p>				
11	<p>カラーリング理論を学ぶ 【到達目標】 カラーリングを行う上での安全活用・薬剤の種類・毛髪知識を学び、使用方法を身につける</p>				
12～19	<p>カラーリングを取り入れた作品作り 【到達目標】 ウィッグを使用して作品作りと共にスタイルに合わせたカラーリングを行うことが出来る</p>				
20	<p>作品を仕上げ撮影をする 【到達目標】 仕上がりの作品を通してカラーリングの出来と写真でのカラーリングの具合を評価し、合格基準をクリアする</p>				
到達目標	<p>1、現場に活用する短時間で行うシャンプーを身につける 2、ショートヘアのブロースタイリングを身につける 3、カラーリングの知識・技能を身につけ作品を作れる</p>				
評価方法	各授業にて到達目標をクリアしているか実技チェック・学科小テスト(各100点満点)を行う。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料・小テスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	岩崎		
科目名	国家試験必須科目（衛生管理）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	20
教育目標・ねらい	環境衛生を学び病気にならないようにする、感染症をの総論を学ぶ。				
授業回	学習内容				備 考
1	感染症総論 「到達目標」感染症発見に業績を残した人物を説明できるようになり。感染症の分類（法律等）を覚え、その特徴も説明できるようになる。				小テスト実施
2	病病原微生物の構造 「到達目標」微生物の形や大きさを知り、構造の働きも理解する、また増殖の仕方も理解し説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
3	感染と感染経路 「到達目標」感染にはどのようなものがあるか、感染経路の分類等を覚え説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
4	感染症各論 「到達目標」代表的な感染症の症状、原因微生物、感染経路、予防対策を理解し説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
5	演習問題15題による総復習				小テスト実施
6	消毒法総論 「到達目標」汚染・感染・消毒・殺菌等の言葉の定義を覚える、施行規則の消毒の方法を理解し説明できるようになる				小テスト実施 前回の小テスト解説
7	消毒法各論 「到達目標」理学的消毒法・化学的消毒法の長所・短所を覚え、適切な消毒法を選択できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
8	濃度計算・衛生管理の実践例 「到達目標」器具の扱い方や濃度計算ができるようになる、実践例はピックアップして説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
9	対象別の消毒法を考える 「到達目標」対象別の消毒法を理解し、適した消毒方法を選択できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
10	演習問題15題による総復習				小テスト実施
到達目標	衛生管理を理解し、公衆衛生の向上に寄与できるようになる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	岩崎		
科目名	国家試験必須科目（衛生管理）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	10
教育目標・ねらい	安全・安心である消毒の基本を学ぶ。後期は公衆衛生の歴史を学ぶ。				
授業回	学習内容				備 考
1	公衆衛生の歴史・保健 「到達目標」歴史上の人物が果たした業績を説明できる、出生率や死亡率、平均寿命を説明できるようになる。 小テスト実施、前回の小テスト解説				
2	生活習慣病各論 「到達目標」死因別にみた脂肪率の順位を説明でき、各生活習慣病の危険因子を説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
3	環境衛生と環境に対するヒトの適応 「到達目標」環境の要因、空気成分、有毒物質を理解し、人への影響を説明できるようになる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
4	住居の衛生 「到達目標」温度・湿度、衣服、冷暖房の基本、上下水道、廃棄物の種類と健康との関係を説明できる。				小テスト実施 前回の小テスト解説
5	演習問題15問による総復習				小テスト実施
到達目標	消毒の必要性を理解し、自分の健康を守れるようになる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター指定教科書）、配布資料				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	木村		
科目名	国家試験必須科目（保健）	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	18
教育目標・ねらい	毛髪を含めた皮膚の知識を学び美容の実践に活かせるようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	皮膚の構造について学ぶ 【到達目標】皮膚の構造の概要を学ぶ			第二編 第一章	
2	皮膚付属器官の構造について学ぶ 【到達目標】特に毛の特性を理解し、他の器官も確認する			第二章	
3・4	皮膚の循環器系と神経系、皮膚と皮膚付属器官の生理機能について学ぶ 【到達目標】皮膚の血管、リンパ管、神経の仕組み、皮膚付属器官のような生理機能を理解する			第三・四章	
5・6	皮膚と皮膚付属器官の保健について学ぶ 【到達目標】保健の知識をしっかり理解する			第五章	
7・8	皮膚と皮膚付属器官の疾患について学ぶ 【到達目標】主だった疾患とその特徴を掴む			第六章	
	学科試験				
到達目標	美容師の皮膚の専門家としての広い知識を身に付ける				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健(日本理容美容教育センター指定教科書)、配布プリント				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	村田		
科目名	国家試験必須科目（香粧品化学）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことで企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	パーマ剤：パーマの手法とそこに用いる薬剤の効能・注意点を学ぶ。 【基礎科学】酸化・還元				
2	ヘア・カラー：染毛の機序と染毛剤の種類とその特徴を学ぶ。				
3	特殊香粧品：スキンケアとしてのサンケア製品の特徴を学ぶ。				
4	芳香製品：香水やコロンなど、芳香製品の分類・特徴を学ぶ。				
5	総合演習				
到達目標	美容部員としての通常業務における使用薬剤・効能などの知識の獲得				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野		
科目名	国家試験必須科目（美容技術理論）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	19
教育目標・ね らい	基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1.2	シャンプーイング 1シャンプーイング総論 2サイドシャンプー バックシャンプー 4 リンス、コンディショナー、トリートメント キャラプトリートメント 6ヘッズスパ			3 5ス	
3	ヘアデザイン 1 美容とデザイン				
4~7	ヘアカッティング 1ヘアカッティングとは 2シザーズとレザーの扱い方 3美容刃物 4ヘアカッティングの正しい姿勢 5ブロッキング 6ヘア カッティングの基礎理論 7ベーシックなカット技法 8シ ザーズのカット技法 9レザーのカット技法				
8~11	パーマネントウェーピング 1パーマネントウェーブの歴史と現在 2パー マネントウェーブの理論 3パーマ剤の分類 4パーマ剤に関する注意事項 5パーマネントウェーブ技術 6ワインディングのバリエーション 7縮毛矯 正				
12~15	ヘアセッティング 1ヘアセッティングとは 2ヘアパーティング 3ヘア シェーピング 4ヘアカラーリング 5ヘアウエーピング 6ローラー カラーリング 7プロードライ 8アイロンセッティング 9バックコーミン グ 10アップスタイル 11ウイッグとヘアピース				
16~18	ヘアカラーリング 1ヘアカラーリング概論 2ヘアカラーの種類 3ヘア カラーのタイプ別特徴 4染毛のメカニズム 5色の基本 6毛髪のレベル とアンダートーン 7パッチテスト 8染毛剤使用時の注意事項 9ヘアカ ラーリングの道具 10酸化染毛剤の技術手順 11酸性染毛剤の技術手順 12 ヘアブリーチ				
19	美容理論前期末筆記試験				
到達目標	美容技術理論について基礎知識が理解できている				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考 慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験するこ ぎない。				
テキスト	「美容技術理論1」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となる美容養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口				
科目名	国家試験課題実習(ワインド)	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題ワインディングを合格レベルまでの技術を修得する						
授業回	学習内容			備 考			
1	国家試験課題第二課題ワインディングの理論を学び、コームワーク、ブロッキングの取り方、ワインディング方法、課題の構成についておさらいをする。 【到達目標】理論と技術行程を理解して、規定に則った作品を作ることができる						
2～5	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム20～25分） 【到達目標】国家試験合格レベルに向けて学校の既定時間での作品作成が出来る						
6～9	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム20分） 【到達目標】国家試験合格できるレベルに到達すると共に修得した技術を応用レベルで活かすことができる						
10	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム18分） 【到達目標】国家試験合格レベルであること、修得した技術を応用レベルで活かすことができる						
到達目標	資格試験課題第二課題ワインディング理論、構成を理解し、合格レベルまでの技術を修得する						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口				
科目名	国家試験課題実習（カット）	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40		
教育目標・ ねらい	理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する						
授業回	学習内容			備 考			
1～5	国家試験課題カッティング 一連タイム入れ (50分～30分) 【到達目標】国家試験合格できるレベルに到達する						
6～12	国家試験課題カッティング技法を使用した作品の説明 国家試験課題レイヤースタイル一連タイム入れ (30分～20分) 【到達目標】国家試験合格レベルであることと共に修得した技術を応用レベルで活かし方を説明できる						
12～19	国家試験課題カッティング タイム練習 (20分～15分) 【到達目標】タイム内に国家試験合格できるレベルに到達する						
20	国家試験課題カッティング試験 タイム入れ (20分) 【到達目標】国家試験合格レベルであることと共に修得した技術を応用レベルで活かすことができる						
到達目標	資格試験課カッティングの基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得し、応用的に活かすことができる						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	国家試験課題実習(オールウェーブ)	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題オールウェーブセッティングを合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	ウィッグ作製、ローション塗布、コームの持ち方説明 ヘアセッティング理論、授業の流れ説明(フル・オールウェーブ) 【到達目標】 ウィッグの適切なコンディションを判断できる。 理論的に完成形の構成及び授業の進行を説明できる。				
4	1段目くり抜き、ウェーブ・リッジ展示・練習 2.3段目ウェーブ・リッジ展示・練習 【到達目標】 基礎となるコームの持ち方、動かし方ができる。 頭の丸みに沿ってハーフウェーブを形成することができる。				
5	4～7段目ウェーブ・リッジ展示・練習 フルウェーブ練習 【到達目標】 頭部形状、作業面に合わせて適切な作業姿勢をとることができる。 頭部の形状に沿ってフルウェーブを形成することができる。				
6～10	フルウェーブタイム入れ(50～25分) 【到達目標】 定められた時間内に任意のフルウェーブを形成することができる。				
11	フルウェーブ25分チェック 【到達目標】 25分間で意図したフルウェーブが形成でき、失格事項についても審査対象とならない。				
12	1段目ピンカール展示・練習 1段目復習、3段目スカルプチュアカール展示・練習 【到達目標】 任意の範囲でハーフウェーブを形成することができる。 フラットカールの要点を理解し、作り上げることができる。				
13	1.3段目復習、4段目以降ブロッキング、4段目Cカール展示・練習 1～4段目復習、5段目CCカール展示・練習 【到達目標】 フルウェーブのつながり、頭部の部位ごとのバランスを理解し、カールスペースを分けとることができる。 ウェーブとのつながりを意識して、カールを形成することができる。				

授業回	学習内容	備 考
14	1～5段目復習、6段目メイポールカール展示・練習 1～6段目復習、7段目クロッキノールカール展示・練習 【到達目標】 カールにおける毛先の処理、ピニングが適切にできる。 作業面の変化に対して、適切な姿勢をとり、カールを形成できる。	
15	3～7段目各カール練習 オールウェーブ練習、国家試験構成確認 【到達目標】 各カールの作成手順を説明できる。 オールウェーブの規定を説明できる	
16～20	オールウェーブセッティングタイム入れ(50分～30分) 【到達目標】 30分間で規定内のオールウェーブセッティングを形成することができる。	
21	オールウェーブセッティング30分実技試験 【到達目標】 30分間で国家試験合格レベルノオールウェーブを形成することができる。	
13～29	国家試験第二課題オールウェーブセッティングタイム入れ（国家試験学校指定タイム25分） 【到達目標】 国家試験合格レベルであること、修得した技術を応用レベルで活かすことができる	
30	国家試験第二課題オールウェーブセッティングタイム入れ（国家試験学校指定タイム25分） 実技試験 【到達目標】 国家試験合格レベルのオールウェーブセッティングを形成することができる。	
到達目標	美容技術理論の基礎とともに技術内容と併せて理解し、資格試験課題第二課題・オールウェーブセッティングを合格レベルまでの技術を修得し、作品として作り出せる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う。 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践。</u>				
授業回					
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。				
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。				
3	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気 になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				
4	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				
8	クラス目標・個人目標振り返り				
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授 業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	近田				
科目名	表現技術（展示授業）	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10		
教育目標・ ねらい	ビューティ業界で活躍をする方より実践的な技術や知識を学び、直接指導を受けることで今の業界の考え方や価値観を含めた流行を身につける						
授業回	学習内容			備 考			
1・2	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる						
3・4	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる						
5・6	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる						
7・8	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる						
9・10	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる						
到達目標	業界の今の流れを理解し、流行のスタイルと商材について学び使用して作品を作ることが出来る						
評価方法	各授業ごとの仕上がりを評価(4段階判定)で評価し、授業ごとの類計を総合評価とする						
テキスト	配布資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	人見		
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	*社会で必要なビジネスマナーと面接対策、ビジネス検定試験合格へのスキルを身につける *接客コミュニケーション、接客時の立居振舞い、なぜビジネスマナーは必要なのかを考える *日本経済や歴史、情報収集、社内文書作成方法など、幅広い知識を取得し、社会人として役立てる スキルを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	授業ガイダンス：マナーとは何か 第一印象が大切な理由 笑顔と美しいの作り方、敬語の種類、発声法。早口言葉。活舌と声の種類 【到達目標】 第1印象で好印象を与えることが出来るようになる				
2	面接や仕事場での自己紹介、立ち方、座り方。接客案内時の手の動きと方向 自分の強み、弱み、魅力を見つける。面接ロールプレイング。 ドアの開閉と接遇、ご案内。 【到達目標】 接客・面接においての立ち居振る舞いを実践出来る				
3	図表、グラフの見方、統計を学ぶ。ビジネス文書の作成方法(社内・社外) 試験で解答に必要な箇所の読み取り方 【到達目標】 社内・社外の対応の違いを知る				
4	サービスとは：接客ノウハウ。クレーム処理。プラスの一言。クッション言葉 売上を上げるために必要なことを学ぶ 顧客獲得方法とミステリーショッパー対策 【到達目標】 接客のノウハウを覚え、実践出来るようになる				
5	電話対応：受電と架電。お客様の心理状態を読む。 表情が見えない時の対応方法。メモの取り方。5W2H。 トークスクリプトを使用したロールプレイング 【到達目標】 声で接客する場合のコツを身につける。				
6	ビジネス検定試験に必要な暗記方法と勉強方法。ビジネス用語。 ビジネスマールのやりとり。 【到達目標】 ビジネス用語の覚え方をマスターする。				
7	*ビジネスチャンスを広げる。先を読む力。お客様の支持を得る方法を学ぶ *要望とニーズの違い。キャリア形成とは。就職、転職、再就職、現代の働き方 【到達目標】 時代を読んで自分自身のキャリア形成に生かす				
8	コンプライアンスと接客の基本。売上戦略とは。新聞の読み方、8つの意識 PDCAサイクル。TPO,社外の付き合い方、冠婚葬祭 【到達目標】 人との関わり方を学び、実践する。				

授業回	学習内容	備 考
9	過去問題集：テスト形式、本番形式による筆記試験と自己採点。解答解説。	
10	過去問題集：テスト形式、本番形式による筆記試験と自己採点。解答解説。	
到達目標	美しく正しい日本語、敬語で話せるようになる。美しい立ち居振る舞いと対応、TPOに合わせた服装で社会生活が出来る。ビジネス用の文章が作成出来、スムーズなコミュニケーションが出来るようになる。	
評価方法	100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。 <input checked="" type="checkbox"/> 面接対策としてプレゼンテーションを課題とし、面接にふさわしい内容の発表、正しい言葉遣いと立ち居振る舞い、敬語を評価対象とする。ビジネス検定試験合格による単位取得	
テキスト	2023年 ビジネス検定試験テキスト、問題集。配布プリント。	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	Reina				
科目名	ファッション学（特殊メイク）	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ ねらい	現場で必要とされる特殊メイクの技術を身に付ける 美翔祭（卒業ヘアショー）においてテーマに合った色やデザインを表現できる						
授業回	学習内容			備 考			
1	【傷メイク】 傷のでき方と経過を知し、色の使い方、表現の仕方を学ぶ あざ・傷メイク実習			デモストレーション 相モデル実習			
2	【スカルメイク】 骸骨のデッサンを通じ構造・骨格を知る 陰影のつけ方を知る フェイスペイント実習			デモストレーション 相モデル実習			
3	美翔祭 ヘアメイク① ヘア、メイク、ネイル、衣装、トータルバランスを考え、ステージ映えする メイクを学ぶ			グループ制作 1・2組合同			
4	美翔祭 ヘアメイク② 各チームのテーマに合わせたメイクを理解し、テーマに合ったメイクを仕上げる			グループ制作 1・2組合同			
5	美翔祭 ヘアメイク③ 観客目線でテーマに合った色やデザインを仕上げる			グループ制作 1・2組合同			
6	【ドラッグクイーン】 ドラッグクイーン歴史背景と特徴について知る 誇張したメイク方法を習得する			デモストレーション 相モデル実習			
到達目標	業界でも数少ない特殊メイクのスキルを習得する						
評価方法	傷・スカルメイク・卒業ヘアショー・ドラッグクイーンのデッサン画、ポートフォリオの提出、出席状況、卒業ヘアショーのクオリティ						
テキスト	プリント（傷メイクについて、スカルメイクについて、ドラッグクイーンについて、デッサンシート）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、各種メディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により培った特殊メイク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	近田				
科目名	ファッション学（トレンドメイク）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	4		
教育目標・ ねらい	メンズメイク講義やメイク業界で活躍されているゲスト講師を招き、講義とデモストレーションを行い、考え方から知識を学び、メイク技法を習得してメイクアップの視野を広げる						
授業回	学習内容			備 考			
1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 業界授業 <p>メンズメイクの知識やメイク道具の知識を学び、メンズメイクアップ技法を習得する</p>						
2	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 業界授業 <p>活躍されている方々から幅広い知識とメイクアップ技法を習得する。</p>						
到達目標	講義とデモストレーションを行い、考え方から知識を学び、メイク技法を習得してメイクアップで表現できるようになる。						
評価方法	出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	ブランド資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、各種メディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により培った特殊メイク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口				
科目名	ファッショニ学(美翔祭)	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	72		
教育目標・ ねらい	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、接客や技術向上を目指す						
授業回	学習内容			備 考			
1~2	ヘアショーテーマ・内容決め 【到達目標】年度ごとの大テーマをもとにショーテーマを決めて、関わる人が満足するショー内容を決定する						
3~4	ショーの構成・ファッショニ・ヘアメイク内容決め 【到達目標】テーマを感じさせる構成やヘアメイク・ファッショニを決めて全体で共有をする						
5~13	ショーのデッサン作成とモデル決め ヘアメイク練習 【到達目標】イメージをデッサン画におこし、モデルを決め必要な用具や衣装など準備物の確認と共にヘアメイクの練習を行いイメージを形にする						
14~22	各担当(演出・音響・照明・モデル・技術者)に分かれショー(作品)に関するブラッシュアップと内容の共有を図る 【到達目標】ショー全体を動かすことで必要なことを発見し、コミュニケーションによる共有を図り、全体の最終仕上がりのイメージ全体で構築する						
23~30	本番当日のスケジュールを組み立て、スケジュールに沿って各担当が当日の動きに合わせて仕込みとステージ練習を行い、終了時にミーティングと共に全体の改善を図る 【到達目標】 当日と同じ動きでショー全体がテーマを感じさせる最上の作品に仕上がっている						
31~36	現場リハーサルを行う 【到達目標】 本番のステージにて照明・音響等の最終仕上がり確認を行い本番に向けショーに関わるすべての人が満足する仕上がりにする						
到達目標	ヘアショーを通し、各担当が一つの事柄を協力して仕上げていき、関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる						
評価方法	ショーにおける全体評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない						
テキスト	参考資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う						

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	学外実習	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	【学外実習①】 この実習を通して具体的な就職先(企業・組織)を明確にする 2年次：5月 30時間 (1日8時間勤務) 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサロン等				
到達目標	1. 現場体験を通してビューティ業界に携わる自己の職業観・職業意識を確立する 2. 学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる				
評価方法	実習先からの評価と本人評価をもとに担任面談を通して学外実習の最終評価を行う。なお所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	配布プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野、野口		
科目名	学内コンテスト	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ヘアショー・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争して一つの物事を成し遂げることで業界理解や社会性を養い、学生全体が今後の業界で活躍できる力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1~6	<p>《美翔祭》 クラス内で話し合い、テーマ・作品・演出等を決定する。計画に沿ってクラスメイトが協同し、関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる</p> <p>【到達目標】 学年でたてたヘアショー計画行動に移すことができる。 関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる</p>				
7・8	<p>《匠すと》 校内コンテストで年度の最終成果物を作成し、研鑽してきた技術を競う</p> <p>【到達目標】 出場競技ごとにイメージした作品を作り上げ、成果物として提出・参加をする</p>				
到達目標	ヘアショー・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争する姿勢の大切さを理解し、今後の業界で活躍できる力をつける				
評価方法	行事ごとの成果物に対し評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	参考資料・配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				